

株式会社ソフトフロント

2014年3月期 第2四半期決算説明資料

2013年11月6日

この資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「期待」、「計画」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示されるほかの媒体にも含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な見通しのみで全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

2014年3月期 第2四半期業績の概要

執行役員 管理部部長 高野誠一

業績の概要

(単位：百万円)

	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	前年同期比 (%)	ご参考 2013年3月期 通期実績
売上高	216	313	144.7%	549
営業損益	△115	△72	-	△107
経常損益	△115	△74	-	△108
当期純損益	△116	△72	-	△110

NTTグループや電力系通信事業分野が好調であったことなどにより売上高が前年同期から伸び、損益が改善。第2四半期会計期間で黒字化を達成し、前年よりも経常損益が40M以上の改善であり、順調な折り返し。

「売上高」の状況

(単位：百万円)

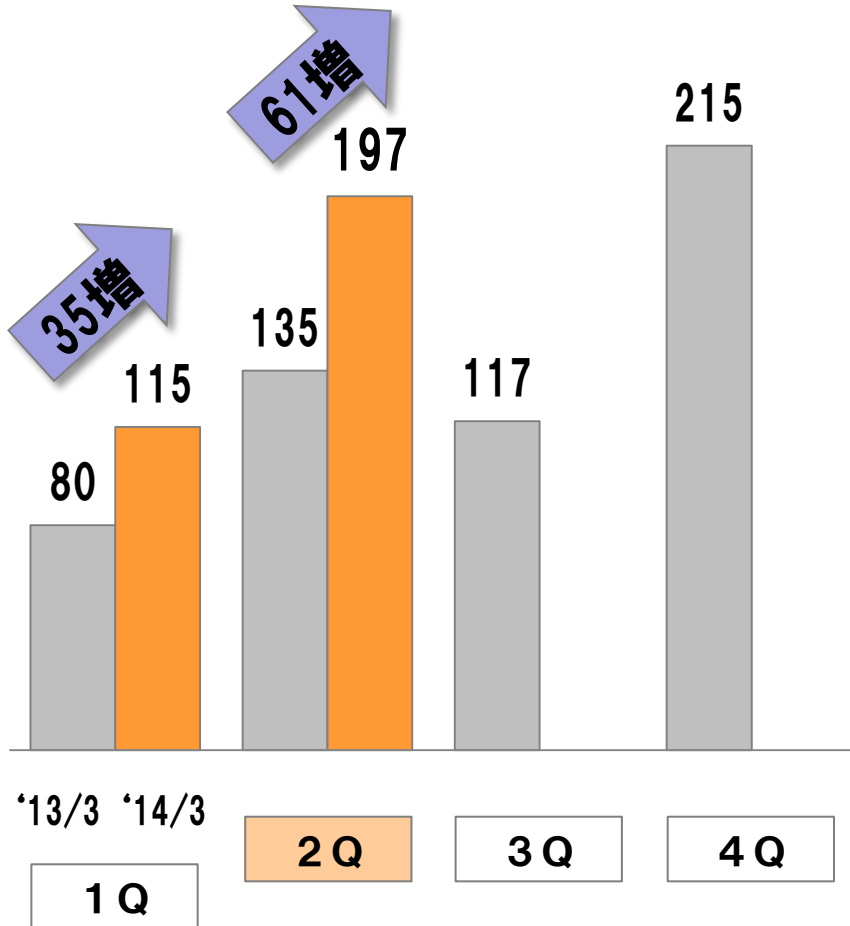
	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	前年同期比 (増減額)	ご参考 2013年3月期 通期実績
売上高	216	313	96	549
ソフトウェア 販売	76	153	77	192
受託開発	127	156	29	331
その他	13	3	△9	24

ソフトウェア販売、受託開発共に前年より増加した。ソフトウェア販売は、既存事業領域として注力した通信事業者向けの製品販売が増加したこと、継続的なライセンス収入が堅調であったことなどにより前年を上回るペースで推移。

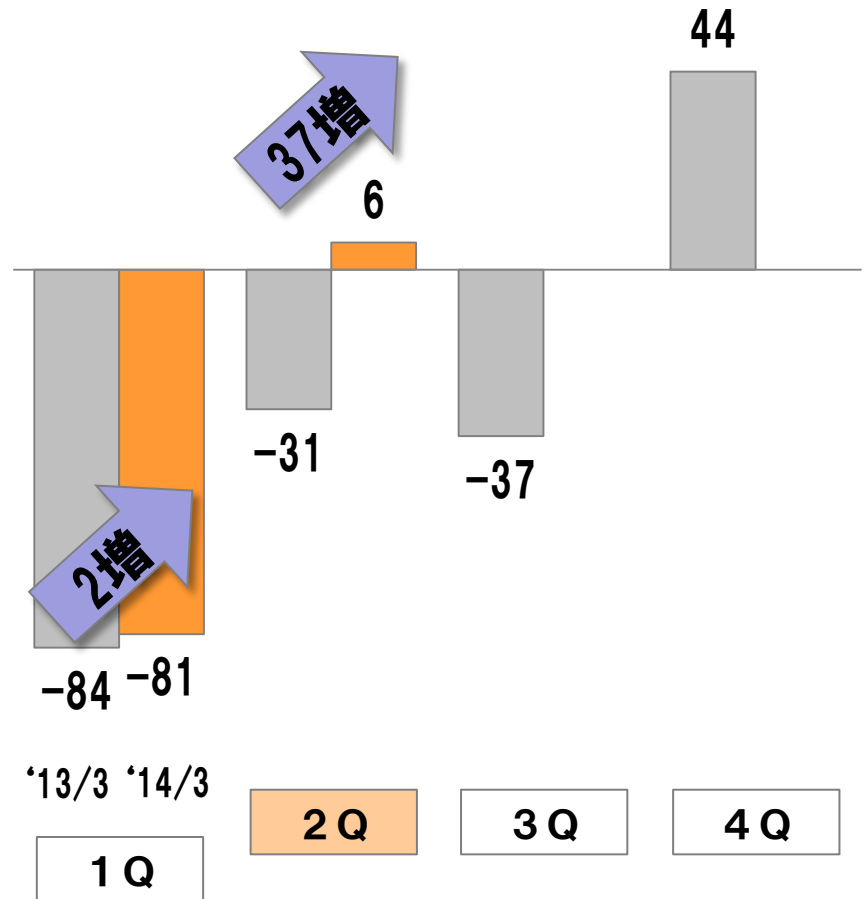
四半期業績推移

(単位：百万円)

売上高



経常損益



2014年3月期第2四半期累計：キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)


営業活動によるキャッシュ・フロー	13
税引前当期純利益	△71
減価償却費	52
売上債権の増減額 (△増加)	56
仕入債務の増減額 (△減少)	△10
その他	△13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△77
財務活動によるキャッシュ・フロー	51
現金及び現金同等物の増減額	△11
現金及び現金同等物の四半期末残高	201
フリー・キャッシュ・フロー	△63

事業展開について

代表取締役社長 阪口克彦

経営計画の進捗と今後の取り組み

ソフトフロントの成長イメージ



デジタルポストを始めとするサービス事業に取り組み、新たな成長を図る

新規市場としてアジアマーケットを狙う海外事業を興し成長を図る

SIPを中心とした従来の既存事業をベースとして緩やかな成長を図る

進捗と今後の取り組み

- デジタルポスト関連事業の強化、拡大
- 新たなサービス提供に向けたパートナー企業への協業開始

- ベトナム子会社設立
- ベトナム国内企業と協業に向け活動

- NTTグループと電力系通信事業に注力した結果、前年を上回るペースで受注獲得
- 事業拡大に向けたソリューション提供のための施策を開始

経営計画の進捗と今後の取り組み — デジタルポスト関連

Digital POST

個人の手紙から
ビジネスレターまで。

PCやスマホから簡単に手紙を送る事ができます。



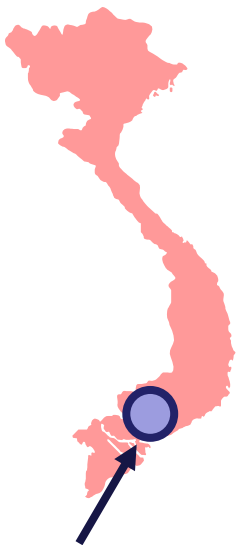
「デジタルポスト」サービスの 全面刷新

- 法人向けのDMや挨拶状、写真の美しいフォトブックなど、あらゆる郵便ニーズに対応

ソースネクスト社「筆王」への印刷・郵便機能提供

- 「筆王ネットプリント」サービス機能においてインターネットから年賀郵便が投函できる機能を提供

経営計画の進捗と今後の取り組み — SOFTFRONT VIETNAM



SOFTFRONT VIETNAM CO., LTD.
子会社設立
(ホーチミン)

- 平成25年8月8日にSOFTFRONT VIETNAM(子会社)を設立した。(資本金325,000 USD)
- 海外進出の第1ステップとして、ASEANの中でも経済成長が見込まれるベトナム市場をターゲット市場と捉え注力する。
- ベトナム市場で事業を興し成長を図るため、ベトナム国内の複数企業と協業に向けて活動を進めている。
- 今後、内なる成長として、収益性と生産性の向上のために、開発拠点を設けコスト低減と開発力増強を進めていく。

資金調達について

< 第三者割当による新株式及び第7回新株予約権の発行 >

- 平成25年7月23日付で、Oakキャピタル株式会社に対し
第三者割当による新株式を発行及び第7回新株予約権
を発行

※2013/07/05及び2013/07/23にリリース発表済

【用途】

- ・ サービス事業領域における事業開発・研究開発資金
- ・ 海外事業領域におけるベトナム現地法人のための事業開発・研究開発資金